



からしだね

2015年
3月号 (503号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父
協力司祭：デニス・マックゴワン神父
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624
URL(ホームページ) :
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



明治村に移築された、京都河原町の聖ザビエル天主堂

巻頭言	2	日曜学校からのお知らせ	3
みことばの分かち合い	4	ガラスケースの言葉	5
宝塚黙想の家から	6	典礼委員会から	6
編集後記	6		

表紙写真 撮影：延原 泰子

※ 聖堂入口で配布しているものからの抜粋版です
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

畠 基幸神父

「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」

(詩篇133、1)

現代世界に広がる「無関心のグローバル化」は、フランシスコ教皇の心痛める問題です。昨年平和メッセージにも、また今年平和メッセージ、そして四旬節のメッセージにもこの言葉が使われています。そして、私たちが心を尽くしてこの問題と取り組まなければならない最大の理由は、わたしたちは一つの家族で、皆兄弟姉妹なのだということです。隣人を愛するという事は、自分の兄弟として愛することで、それは、キリストの遺言のように、「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい」ということなのです。同じ父の子となるように愛し合うことが現代の無関心のグローバルイズム、そしてテロの暴力に対抗する命への道ではないかと教皇は訴えておられるのです。

ところで、文章化して上記のように話すと堅苦しい実現できない絵空事のように聞こえるかもしれません。四旬節のメッセージの中に、教皇様は具体的な取り組みを示唆されています。そして、それは大きな理想は小さな積み重ねから始める、つまり個人ができることがあれば、まずそれを着実にやることから実現すると言っておられるように思います。それは、「知恵」と別の表現で言っておられます。「知恵」は、学術的、抽象的な知識ではなく、聖霊から注がれる姿勢で、兄弟姉妹の苦しみに心を配り、彼らの中に神の姿を見ることが出来る人々の心と精神に注がれる姿勢のことであると教皇さまは、世界病者の日のメッセージの中でこの「知恵」を展開されています。

皆さまは、ディズニーのミュージカル映画「アナと雪の女王」をご覧になりましたか？子供向けの物語であります。キリスト教的なメッセージ、教皇様の言う「知恵」を考えさせてくれます。原題は「Frozen (凍った心)」で、ある小さな王国の二人のプリンセス、エリサとアナの仲の良い姉妹を引き裂いたのは、ある恐れでした。姉のエリサは、不思議な魔法、触れるとこちこちに凍らせる力を持っており、妹の願いに応じて雪や雪だるまを作り出して妹と遊ぶうちに魔法の力が妹に当たり傷つけてしまう。二度と妹を傷つけないと願い、その恐れから魔法の力を隠すために妹とも誰とも会わず部屋に閉じこもってしまう。アナはそんなこととは知らずに一人孤独な日々のうちに成長しました。父王と王妃は遠くの国に出かけ、嵐で難破し帰らぬ人となりました。姉のエリサが跡継ぎで女王になることになりました。戴冠式の日、ようやく二人は再会します。お城が開放され、近隣諸国の賓客が招かれました。深窓の城の中で育ったアナは、人恋しく初めて出会ったハンス王子と意気投合し結婚する許しを姉に願います。しかし、姉の女王エリサは、それに許可を与えず、怒りだすと、その秘密の魔法の力が現れ、真夏の王国が冬の世界に変わり、エリサは逃げ出し、山の頂上に氷の城を造り、そこに閉じこもってしまいます。その山に行く途上で歌う歌は、昨年大流行でした。歌詞のタイトルは、「ありのままです」。英語では、「LET IT GO」(行かせる、解き放つ)で、日本語とはニュアンスが違い、「いい娘であるようにと、いろいろな制限に閉じ込められていた恐れから解き放たれて自由になる」というような歌詞です。日本語のほうは、「ありのままの姿、ありのままの自分になる」と悩みや緊張を解き放ち自分らしく生きることを促す歌詞に変えています。これまで抑えて、隠していた力を解放して、誰にも邪魔されず生きたいように生きるという自由になった喜びを歌います。この歌に共感する人が多いのです。

しかし、物語は、そのように自分の力を誇示すればするほど、高い氷の山の奥深くへと入り込んでいき、王国は闇に包まれます。アナは、危険を顧みず、奥深い雪山の氷の城の中に姉を救い出すために出かけます。山男のクリストフ、トナカイのスヴェン、夏にあこがれる雪だるまのオラフと出会い、ようやく氷の城に到着しますが、姉は、ますます魔法の氷の力を使ってアナを遠ざけます。その冷たさは心臓に突き刺さり、次第に心が凍って死んでいく運命になるのです。ここまで話すと物語が台無しになるかもしれません。ただ、「知恵」の言葉です。アナはエリサ女王が悪人ハンス王子の刃を身代りに受けた時、すでに氷になってしまっていて姉の命を救います。エリサ女王は、そこでアナの死を悲しみ、氷のアナを抱きしめ泣きます。すると凍りついた氷が解け始め、アナは生き返ります。エリサとアナはその時初めて真の愛とは何かを、互いの姉妹の相互の愛を確認します。こうして凍っていた王国は冬から夏の国へと変わります。

氷のように冷たくなった隣人に近づくことは誰にとっても困難を伴います。「無関心のグローバル」の病は、私たちの身近な人の心にも、わたしの心の中にも潜んで私たちを孤独の住人にしてしまいます。何かして傷つきたくない。その深い闇には、過去の傷が癒えぬまま叫んでいる。“Let it go.” もういい。好きにさせてくれ。私たちの内に潜む声です。この物語では姉の心を信じて氷の城へとアナは恐れず飛び込んでいきました。本物の愛とは何かを子供たちに伝えます。一人ではできないことも、他者の必要と痛みに寄り添う仲間と共に兄弟姉妹の救いのために出向いていくことなのだ。そのとき、兄弟姉妹に本当の命が回復する喜びをともにすることになる。これが神の国の種であり、キリストの知恵です。かなり高度な物語だと感心して、それで終わりにしてはいけません。

「When I find myself in times of trouble

Mother Mary comes to me

Speaking words of wisdom,

Let it be」(ビートルズ解散直前の最後のナンバー「Let It Be」1970年)

困難な時には、聖母マリアが傍に来て、あの知恵のことは、「Let it be (仰せのように) そうなりますように」と祈ってください。

『日曜学校からのお知らせ』

4月の新年度に向けて、日曜学校では新しい参加者を募集しています。

新年度4月に、幼稚園年長、小学生になるお子さんから、日曜学校に参加できます。日曜学校でいっしょに聖書を読んだり、祈ったり、歌ったり、遊んだりしませんか？ 洗礼を受けている、受けていないは問いません。

また、日曜学校には初聖体準備クラスがあります。一年かけて、復活祭に初聖体を迎えられるよう準備をすすめます。何かの事情で初聖体を受けそびれているお子さんはいらっしゃいませんか？

基本的には小学校2年生を対象にしていますが、他の年齢のお子さんの参加ももちろん可能です。新しい仲間の参加を、心待ちにしています。

どうぞまわりのお子さんをお誘いください。3月中旬に申込書の配布を予定しています。

相談、問い合わせは日曜学校サポーター 大川・島田・閑歳 まで



みことばの分かち合い

「7ステップ法によるみことばの分かち合い（“7ステップ法による”を以下では省略）」では毎月第1日曜日のミサで採り上げられたみことばの中から心に響いた“ことばや節”の分かち合いを通して、毎日の生活や共同体の中にみことばを活かすのを目標とした新しい企画です。その第1回は2月1日にミサの終了後にマルコ 1章：21節—28節をみことばとして、参加者全員（24名）を一つのグループとして、畠基幸神父を進行役として行われました。以下に掲載するのは畠基幸神父による「みことばの分かち合い」の趣旨説明と2名の参加者による体験記です。

「みことばの分かち合い」の趣旨 畠基幸 神父

日本のカトリック教会でみことばを読む時に、どうしても意味の探求に集中して、過去の文書にのめり込んだり、みことばの研究に時間を使う傾向があります。そのために、今も共に生きている主イエスとの出会いがおろそかになるのです。「主の祈り」や「アベ・マリア」で祈る時にも、いくつかの祈りの言葉が自分の思いだけに留まりがちです。重要なことは、ことばを読む場合や祈る場合は、主に軸足を置いて、主の語りかけを聴くという姿勢をとることです。そうすれば、聞こえて来た主の語りかけが皆さんの生活に結びつけられるのではないかと思います。

南アフリカ共和国のルムコ研究所がグループ・メンバーの思いを分かち合う目的に7ステップ法を紹介し、アジアの司教協議会が生活や共同体の刷新の方法として

“みことば”と“参加型”を基本的なアイデアとした「みことばの分かち合い」を考案しました。

その7ステップ法を用いるならば、第1ステップで主を近くにお招きし、第2ステップで聖書にある福音を読み、第3ステップに於いて、参加者はそれぞれ福音から選んだことばや節を祈りの気持ちで三回繰り返します。繰り返されるみことばや節を聞いている方々は主の語りかけが自分にもなされているのに気づいたり、そのことばと自分が選んだことばとを関連させて新たな主の語りかけに気づくこともあるでしょう。この第3ステップこそが主との個人的な分かち合いをもたらします。第4ステップで暫くの沈黙の時を持って、一緒に居られる主が何を語りかけているのかをより確かなものにします。

「みことばの分かち合い」の第5ステップでは、各人が選んだことばや節が心に響いたわけを聞いて、グループの誰もが主の語りかけを他の人々と分かち合っていると感じることでしょう。第6ステップでは、毎日の生活や共同体の「この様にしたかったのに」と感じた出来事について話し合います。第5ステップまでにお互いの信頼関係が深まったので、他の人の思いを肯定できるようになって対話が活発になり、出来事を前に進める具体的な行動計画が生まれるかもしれません。しかし、「みことばの分かち合い」はその計画が最善かどうかを議論するのを評議会に委ねるべきでしょう。第7ステップで、ご一緒された主に感謝と讃美を捧げ、互いに感謝して散会します。

6人から8人で構成するグループが分かち合いを作り出せるかどうかは、グループの進行役（ファシリテータ）の力量にもあると思いますが、ファシリテータの交替を重ねるうちに司会進行の方法を会得して、グループのダイナミズムと霊の導きによって、誰がファシリテータになっても、皆の発言を分かち合うことができるようになると思います。

体験記1：「権威ある新しい教えだ。」（マルコ 1章27節） 杉山 直人

後藤健二氏が殺害された翌日、第一回「みことばの分かち合い」が実施された。だから冒頭あげた一節が、わたしの心にのしかかった。彼を斬首した黒ずくめの男は、イスラム過激派の「権威」なのだろう。

過去にはBBC放送にも登場したことがあるイギリスの人気ラップ歌手だったとか。同じように世界の若者にメッセージを送っているのだが、いまは音楽ではなくて恐怖「権威」というわけか。

「復讐するは我にあり」（「ローマ人への手紙」）とは、他人にたいする報復を戒める「みことば」ではある。真の公平と真の正義を知るのは神のみであってみれば、われわれが毎日のように口にする「正義」など、しょせんは浅はかで視野の狭いものでしかないということになる。だから今回のできごとにしても、被害を受けた日本人やヨルダン人は自分で手を下すのではなく、真の「権威」たる神の裁きを待つのが正しい信仰のあり方、ということになるのだろうか。だが、現実には起きているのは、「イスラム国」にたいする烈しい空爆と殺戮。いつになれば悲劇は止むのだろうか、いつになれば子供たちに笑顔が戻るのだろうか、いつになればイスラムの人びとに対するわだかまりは、キリスト教徒から消えるのだろうか。はたして過激派の憎しみが「愛」に変わる日は来るのだろうか。「権威ある新しい教え」を待ち望むしかない。

体験記2：わたしにとっての「分かち合い」（マルコ1章21節～28節）

島上 きく

「分かち合い」に参加するとき、今日はどんな話、どんな思い、どんな疑問、どんな感動を聞かせてもらえるのだろうと、すこしドキドキします。他人の話を聞きながら、共感したり、考えさせられたり、そんなこともあるのかとびっくりしたりしながら、それまでより、相手を近く感じます。

教会でミサにあずかって、仕事を一緒にして親しくなるのとは、少し異なる絆を感じると言ったら、少し大げさなのですが、心にしみることが多いことは確かです。参加した人に対して、友情を感じますし絆ができた気がします。小さいかけらかもしれないけど本当の自分を見せ合っているからだろうなと思います。

今回は私にとっては初めてで、とっつき易い形の「分かち合い」でした。聖書朗読の後、心に留まった語句（文章でないのがみそ）を一つ3回言う。“なんで3回？”と思いつつも、皆がそうしているうちに、心にしみるには3回というのは必要だと感じました。1回では、流れてしまうのです。3回だと深く聞けるのだと思います。そのあと、なぜそこを選んだかを発表しますが、短い語句を選びながらも、深い思いが伝わってきます。そこで同じ思いの人がいると、なぜか嬉しかったり、思いもかけない言葉が思いもかけない意味を持っていたり、いろいろな発見があります。

久しぶりにいろんな方とつながった気がします。素の自分を語る「分かち合い」で、できるだけ多くの教会の方と本当の家族になりたいとつくづく思いました。

ゆっくり話したことがない方と、このような形で親しくなれる機会を教会で持てるのはうれしく、ありがたいことだと思います。

3月のガラスケースの言葉

「忘れないでください
わたしの命は風にすぎないことを」

ヨブ記 7の7



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

3月19日(木) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内十束神父

3月20日(金) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内十束神父



■ 四旬節黙想会

3月21日(土) 17:00 ~ 22(日) 15:30 指導: ウォード神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

典礼委員会から

- 復活祭は4月5日です。
- 十字架の道行は復活祭までの毎週金曜日の 10:00・18:30
(聖金曜日にあたる4月3日は10:00のみです。)

編集後記

一 昨年は副議長、昨年は議長として「評議会」に加わりました。2年間をふり返ると、教会の将来にたいする漠とした「不安」を感じます。信徒会館を建てた20年まえ、教会には若いメンバーがたくさんいました。年齢構成は安定したピラミッドだったのです。残念ながら現状は「逆ピラミッド」。少年老いや早く教会運営困難を増す。維持費収入もゆるやかに減少続き。こうした現状であるにもかかわらず(だからこそ、と言うべきか)教区は「社会に開かれた教会」を呼号しています。いっそうの社会活動を小教区に求めている。疑問を感じます。各小教区の足元をこそ鍛えるべきです。高齢化と少子化に、カトリック教会はどう対応するのか、明快な方針に基づく指導力を小教区に発揮すべき。

「開かれた教会」と叫んでいれば「信者は増えていく、それこそ神様の思し召しである」くらいに現状を捉えているとすると、オメデタイ。わたしの「不安」が実現化しないよう祈る。(直)

